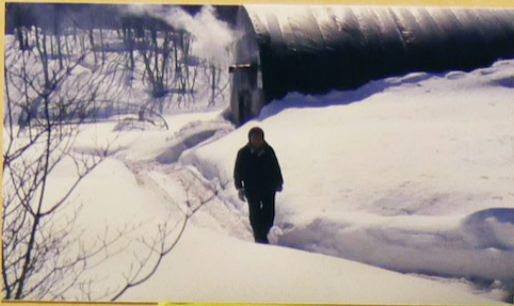


雪にかこわれて

もう少しで雪に埋まってしまいそうな墓石。黄色い菊の花が一輪、墓に向かって雪の上にいけられていた。



升沢の雪はとも深い。「一里一尺」といい、山奥へ一里（四キロ）ふみこむごとに一尺（約三〇センチ）ずつ雪の深さが増す。いまでも雪も半分ほどになったが、かつて多い年は十尺（約三メートル）ほども積もったという。雪のない時期には田畑の仕事もできるが、雪に降りこめられる冬は、もっぱら木伐り・炭焼きなどの山仕事と、ウサギ・クマ・ヤマトリ・ムササビなどを狩る銃撃の季節である。かつて下原の子どもたちは荒川にかかる丸太橋を渡って升沢分校に通っていたが、雪が降り続く川を越えられず通えなくなった。一方、伐りだした材木を着けたソリや、山で撃ったクマは、雪の上からこっそり運ばれて（滑らせて）運ぶことができた。



雪の跡を歩く



ヤトツ（雪風）



タロヒ（氷垂）



雪降りの世間話



森町